

2023年3月期（2022年度） 第2四半期 決算説明会

2022年11月25日

株式会社 指月電機製作所

(東証スタンダード/証券コード6994)

代表執行役社長 足達信章

- 1. 2023年3月期 第2四半期 連結決算概要
2023年3月期 通期 連結業績予想**
2. 中期経営計画 第Ⅱ期の取り組み
3. トピックス

2022年度 第2四半期（対前年同期）

▶ 売上高

市場環境は、電子部品の供給逼迫／中国コロナ規制が継続する一方で、省エネ・脱炭素のニーズの高まりを受け、受注が好調に推移。これに加え、円安効果や素材価格高騰分の価格転嫁活動の刈り取りもあり、上期の売上高は前年同期比14%増、上期としては過去最高となる124億円を達成。

▶ 営業利益

依然継続している素材価格の高騰に対応した価格転嫁を推進するも、刈り取りが後追いとならざるを得ず、加えて電力料金の増加も重なり、営業利益は前年同期の305百万円に届かず、135百万円に留まった。

2022年度 通期見通し

▶ 売上高

省エネ・脱炭素ニーズの高まりを踏まえた商談の確実な取り込みにより、通期では前回予想を上回る255億円を見込む。

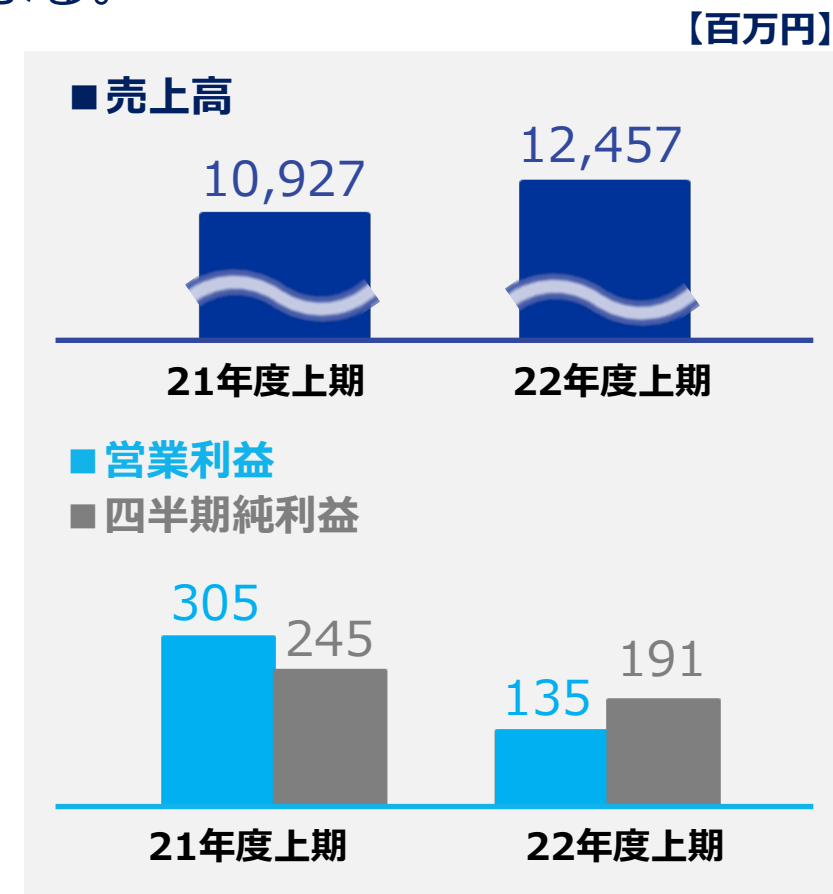
▶ 営業利益

受注は好調であるが、素材他の物価上昇は今後も継続が見込まれ、営業利益は前回予想から5億円の下方修正となる10億円を見込む。

1-1. 2022年度 第2四半期 連結決算概要

- ▶ 売上高は、中国ロックダウン／半導体部品の需給逼迫等による x E V の減少があるも、産業／電力分野の太陽光向けコンデンサ／瞬低補償装置の伸長により、全体で前年同期比14%増、上期としては、過去最高となる124億円を確保。
- ▶ 営業利益は、素材価格高騰の継続に加え電力料金も増加、これらの価格転嫁が後追いとならざるを得ないことから、前年同期比▲1.7億円の1.4億円に留まる。

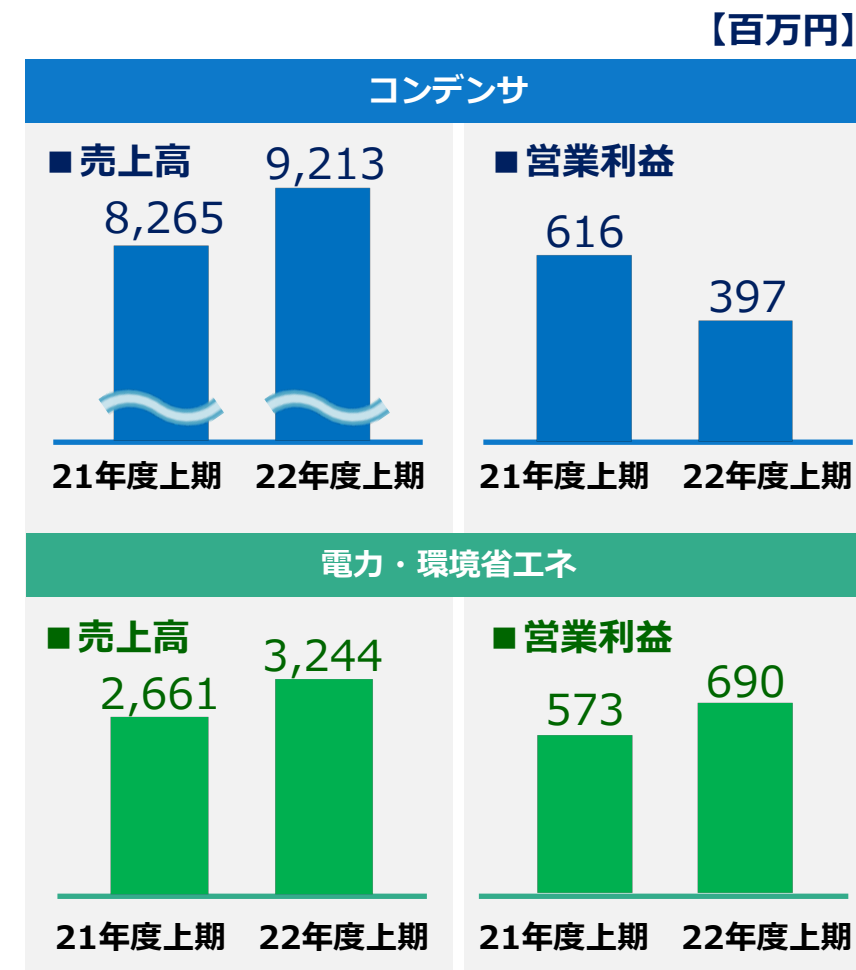
項目	2022年度 上期		前年同期比
	2021年度 上期 実績	2022年度 上期 前回予想 実績	
売上高	10,927	12,200 12,457	+1,529 (+14%)
営業利益	305	100 135	▲170 (▲56%)
営業利益率	2.8 %	0.8 % 1.1 %	-
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	245	170 191	▲54 (▲22%)



1-1. 2022年度 第2四半期 セグメント別実績

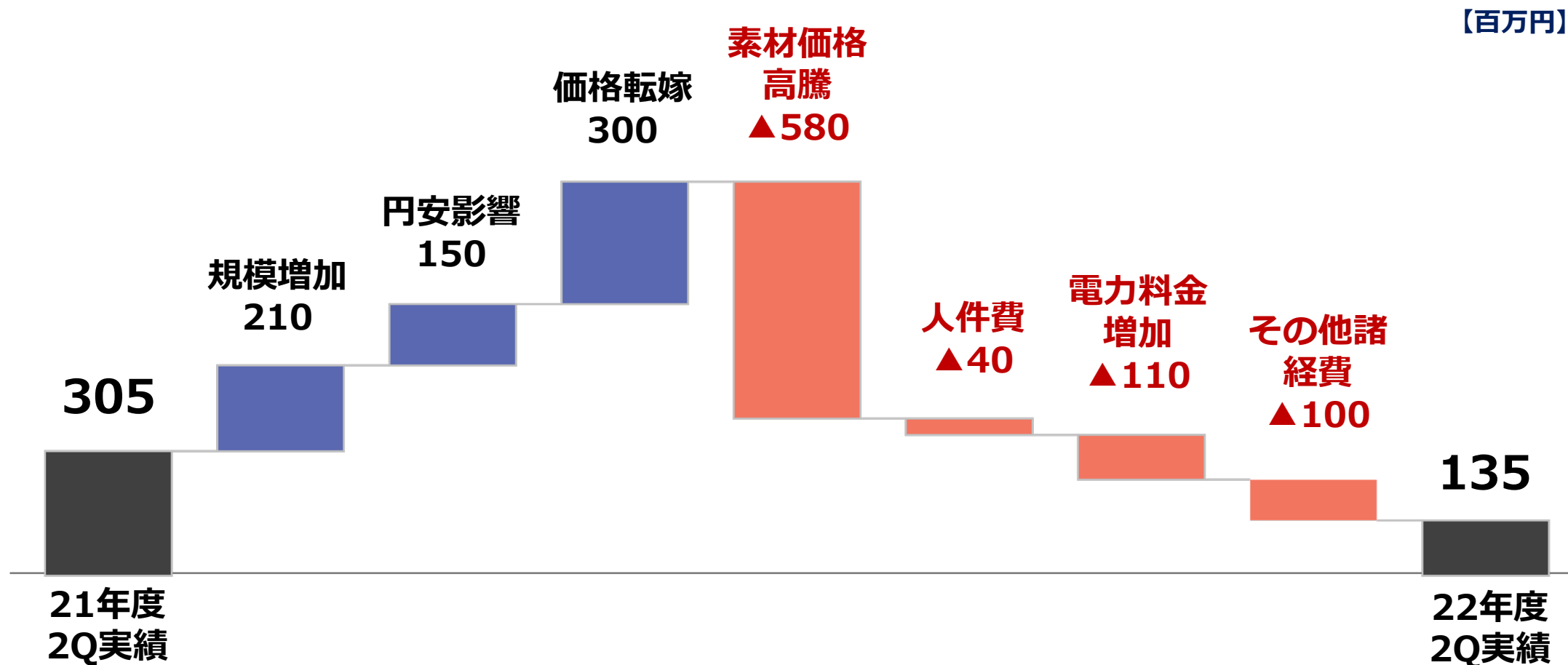
- ▶ コンデンサは、x E Vの減少を産業機器で吸収し、前年同期比11%の伸長。営業利益は、継続した価格高騰に加え、電力料金値上げもあり減益。
- ▶ 電力・環境省エネは、半導体部品メーカー向け瞬低補償装置の伸長により、売上高/利益とも、前年同期比20%超の伸長。

セグメント	項目	【百万円】		
		2021年度上期 実績	2022年度上期 実績	前年 同期比
コンデンサ	売上高	8,265	9,213	+947 (+11%)
	営業利益	616	397	▲219 (▲36%)
	営業利益率	7.5 %	4.3 %	-
電力・環境 省エネ	売上高	2,661	3,244	+582 (+22%)
	営業利益	573	690	+117 (+20%)
	営業利益率	21.5 %	21.3 %	-
セグメント利益の調整額		▲884	▲952	-



1-1. 2022年度 第2四半期 損益変動分析

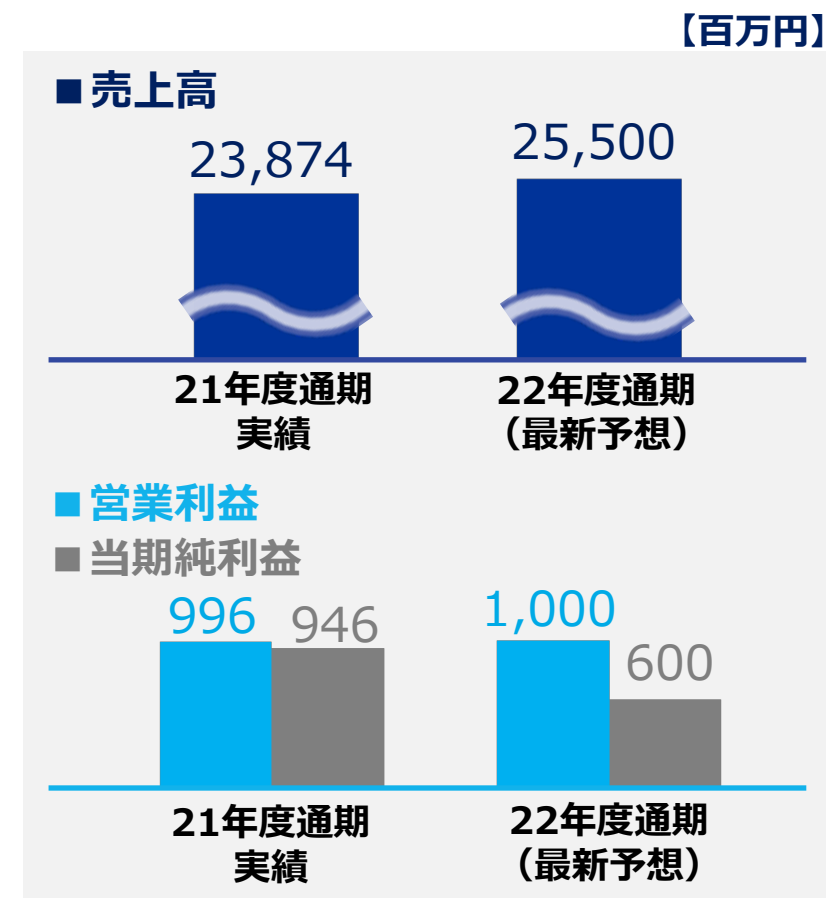
- ▶ 規模増、為替円安、価格転嫁の進展の一方で、素材価格の継続的な高騰の影響が大きく、前年同期比1.7億円の減益。



1-2. 2022年度 通期 連結業績予想

- ▶ 売上高は、産業／電力分野の拡大により、対前年度比7%増、前回予想を上回る255億円を見込む。
- ▶ 営業利益は、素材高騰の価格転嫁を進める一方、今後一層の素材価格／電力料金等の物価高騰が一部継続すると見込まれ、前回予想比▲5億円となる10億円を見込む。

項目	2021年度 通期	2022年度通期		前年度比
		(前回予想)	(最新予想)	
売上高	23,874	25,200	25,500	+1,625 (+7%)
営業利益	996	1,500	1,000	+3 (+0%)
営業利益率	4.2 %	6.0 %	3.9 %	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	946	1,000	600	▲346 (▲37%)



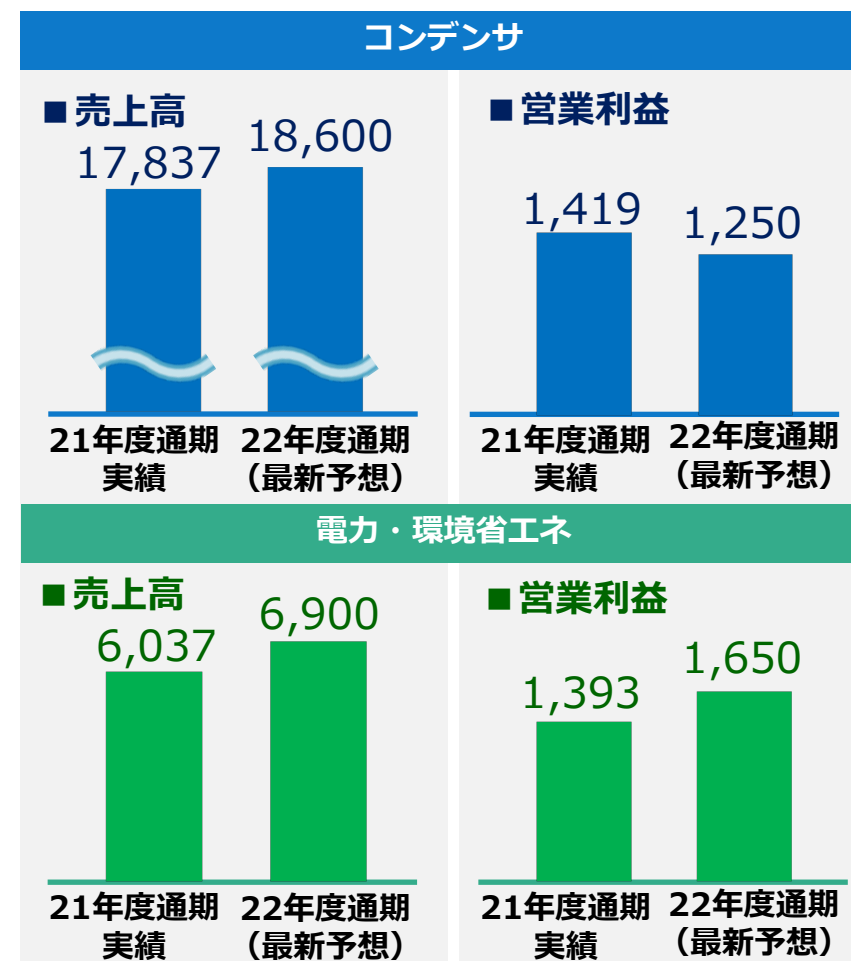
1-2. 2022年度 通期 セグメント別見通し

- ▶ コンデンサは、産業分野での太陽光向けを中心とする需要拡大を受け、売上高は前回予想を上回る186億円を見込む。一方、利益は、素材価格／電力料金の高騰により予想値には届かず。
- ▶ 電力・環境省エネは、瞬低補償装置の継続的拡大により概ね前回予想どおりの売上高を見込む。利益は、前年度比増とはなるものの、素材価格影響により予想値には届かず。

【百万円】

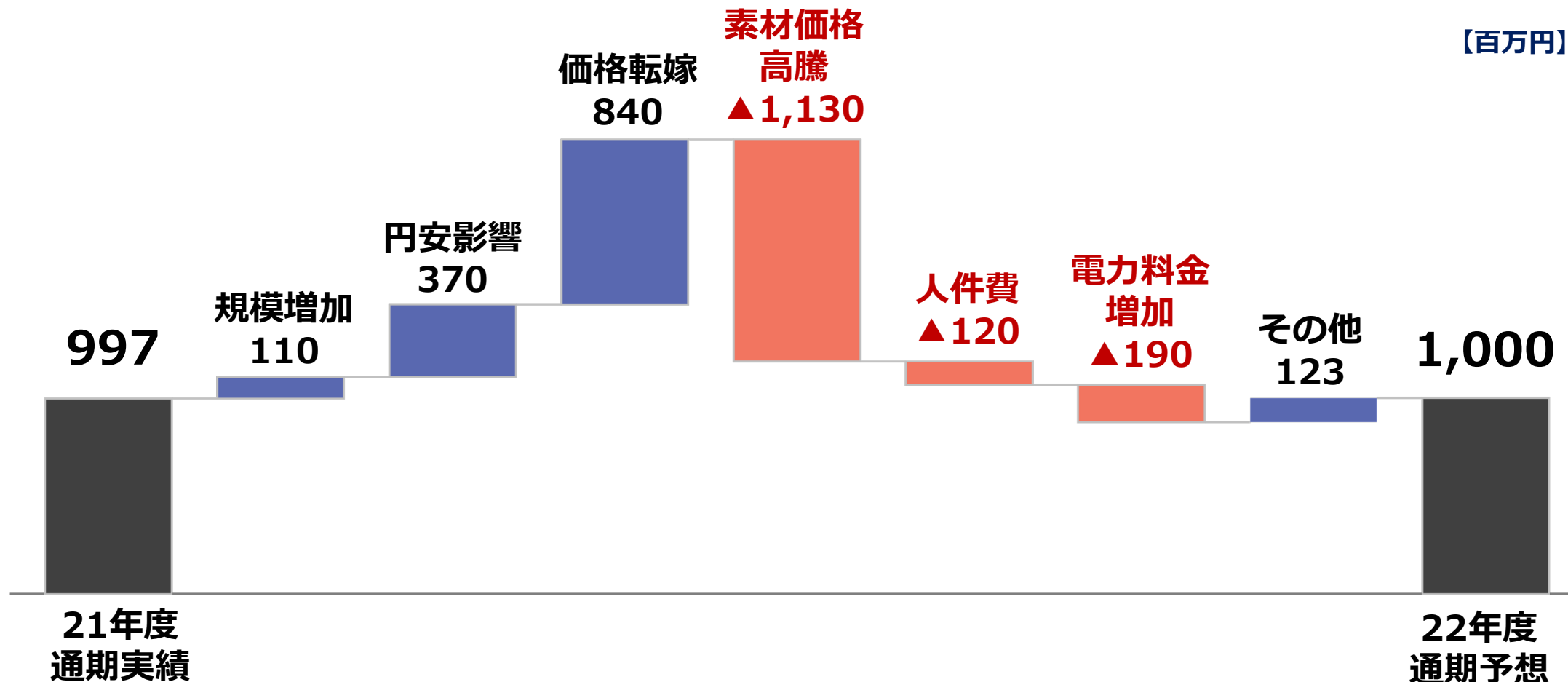
項目	セグメント	2021年度 通期	2022年度 通期		前年度比
			(前回予想)	(最新予想)	
コンデンサ	売上高	17,837	18,200	18,600	+762 (+4%)
	営業利益	1,419	1,500	1,250	▲169 (▲12%)
	営業利益率	8.0 %	8.2 %	6.7 %	-
電力・環境省 エネ	売上高	6,037	7,000	6,900	+862 (+14%)
	営業利益	1,393	1,900	1,650	+256 (+18%)
	営業利益率	23.1 %	27.1 %	23.9 %	-
セグメント利益の調整額		▲1,815	▲1,900	▲1,900	-

【百万円】



1-2. 2022年度 通期 損益変動分析

▶ 素材価格の継続的な高騰、電力料金の増加の影響がある一方で円安影響、価格転嫁の進展があり、ほぼ前年度並みで着地。



1-3. 設備投資・ROA・配当

- ▶ 設備投資は、xEV、産業の生産能力拡大にむけた投資を継続する。
- ▶ ROAは資産効率としては前年と同程度となる見込み。
- ▶ 配当は前回公表値を据え置き、年間9.0円を計画。

項目	単位	2021年度 実績	2022年度		備考
			上期	通期（年間）	
設備投資	【百万円】	1,298	298	見込 1,660	意思決定ベース
ROA	【%】	3.1	0.4	見込 3.1	営業利益ベース
配当	【円】	8.5	4.0	計画 9.0	上期4.0+下期5.0

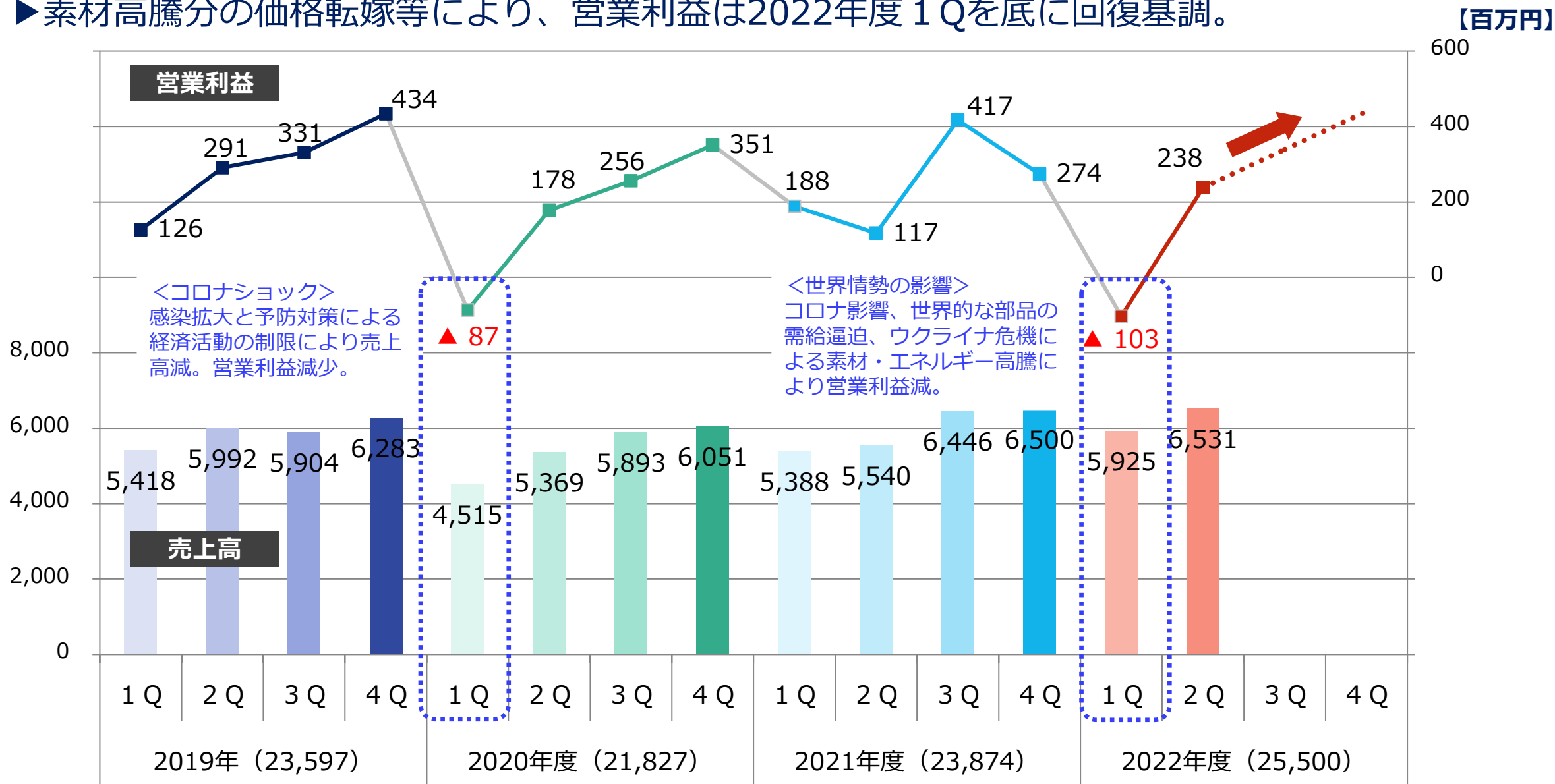
＜補足＞ 四半期別 事業別 売上推移

【百万円】

事業		2020年度					2021年度					2022年度		
		実績											予想	
		1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	年間
コンデンサ	産業機器	1,452	1,407	1,322	1,344	5,525	1,402	1,543	1,743	1,910	6,598	1,879	2,099	8,000
	自動車 (xEV)	863	1,602	1,794	1,964	6,223	1,753	1,609	1,940	1,733	7,035	1,628	1,644	6,700
	その他	836	852	1,016	1,098	3,802	1,021	938	1,090	1,155	4,204	960	1,000	3,900
	合計	3,151	3,861	4,132	4,406	15,550	4,176	4,090	4,773	4,798	17,837	4,468	4,744	18,600
電力機器	電力 (国内)	1,167	1,288	1,453	1,287	5,195	965	1,153	1,379	1,234	4,731	1,022	1,172	6,600
	電力 (海外)	92	106	161	154	513	148	98	138	272	656	246	192	
	環境省エネ	67	58	57	108	290	71	96	66	70	303	181	333	
	その他	38	56	90	96	280	28	103	90	126	347	5	89	
合計	1,364	1,508	1,761	1,645	6,278	1,212	1,450	1,673	1,702	6,037	1,456	1,787	6,900	
総合計		4,515	5,369	5,893	6,051	21,828	5,388	5,540	6,446	6,500	23,874	5,925	6,531	25,500

<補足> 四半期別 売上高・営業利益推移

▶ 素材高騰分の価格転嫁等により、営業利益は2022年度 1Qを底に回復基調。



1. 2023年3月期 第2四半期 連結決算概要
2023年3月期 通期 連結業績予想
2. **中期経営計画 第Ⅱ期の取り組み**
3. トピックス

※業績数字について、次頁から四捨五入で表記しております。

電気エネルギーの効率的な活用を支え、安全で快適な脱炭素社会の実現に貢献するシツキの事業

コンデンサ・モジュール

重点事業：産業機器、xEV

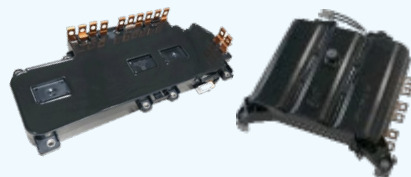
産業機器

- ◆代表製品
電鉄車両用コンデンサ
モータ/ドライブインバータ用コンデンサ
太陽光/風力発電用コンデンサ、各種電源用コンデンサ
- ◆顧客・販売先
装置メーカー/機器メーカー（部品として組込まれる）



xEV

- ◆代表製品
 - ①主機用コンデンサ
駆動インバータ用平滑コンデンサ
 - ②補機用コンデンサ
DCDCコンバータおよび充電器用コンデンサ
電動コンプレッサ用コンデンサ
- ◆顧客・販売先
各装置/機器メーカー（部品として組込まれる）



電力機器システム

重点事業：電力、環境省エネ

電力

- ◆代表製品
電力受配電用 進相コンデンサ、直列リアクトル
- ◆顧客・販売先
重電メーカー、盤メーカー、サブコン、工事店



環境省エネ

- ◆代表製品
高調波（電気障害）対策装置
瞬時電圧低下補償装置
回生エネルギー蓄電インバータ
無効電力補償装置
- ◆顧客・販売先
重電メーカー、機械メーカー、需要家
（マンション・商業施設・ビル・工場、等）



2. 中期経営計画 第Ⅱ期の取り組み

電気エネルギーの効率的な活用を支え、
安全で快適な脱炭素社会の実現に貢献するシツキの事業

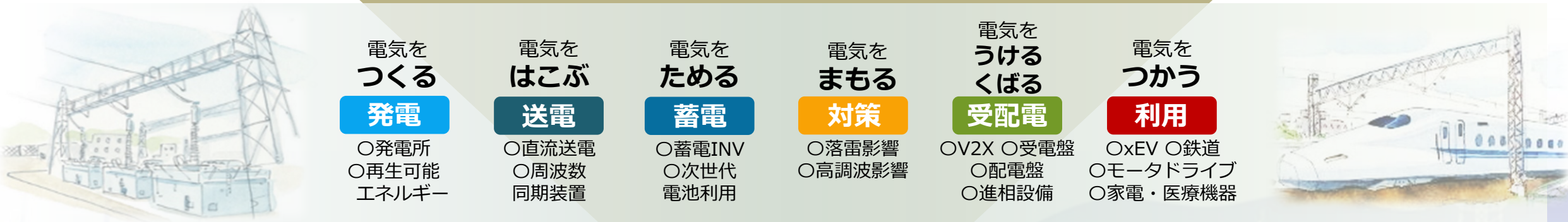
コンデンサ・モジュール

重点事業：産業機器、xEV

電力機器システム

重点事業：電力、環境省エネ

電気に関わる多様なシーンに貢献



安心・安全で快適な
社会の実現

社会課題の
解決へ貢献

持続可能な
地球環境の実現

サステナビリティの実現に向け、機能拡大と技術の高度化を推進する

事業に関連する主なSDGs



2. 中期経営計画 第Ⅱ期の取り組み

長期経営ビジョン

挑戦する社風へと変革し、品質第一のモノづくりと、未来を見据えた新技術・新商品の開発、グローバルな事業展開の推進により、社員の夢を実現し社会に貢献する企業グループになる

中期経営計画

第Ⅰ期 2019～2021年度

第Ⅱ期 2022～2024年度

第Ⅲ期 2025～2028年度

売上高目標値【連結】



- ▶ 第Ⅱ期には、パワーエレクトロニクスの普及に貢献するため事業拡大を強力に推進する。また、エネルギーマネジメントのニーズの高まりを見据え、製品の機能拡張や市場開拓に挑む。

2. 中期経営計画 第Ⅱ期の取り組み

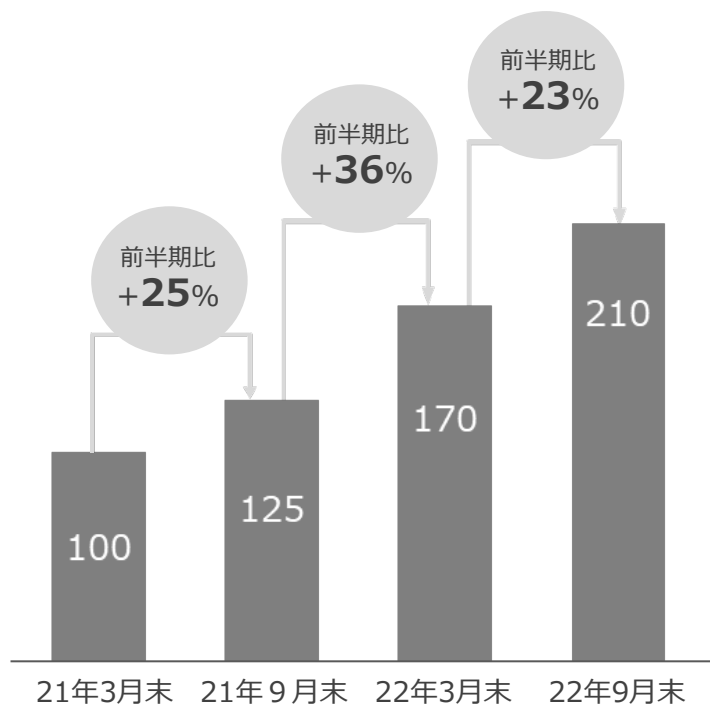
- 24年度で、売上高280億円、営業利益率8%超をめざす。
- 配当は、事業拡大のための設備・研究開発投資、人的な面の手当を考慮しつつ、株主様への利益還元を進めていく。

項目	単位	2021年度 実績	2022年度		2023年度	2024年度
			上期実績	通期計画		
売上高	【億円】	239	125	255	262	280
コンデンサ	【億円】	178	92	186	189	202
電力機器	【億円】	60	32	69	73	78
営業利益	【億円】	10	1.4	10	20	23
営業利益率	【%】	4.2%	1.1	3.9%	7.7%	8.1%
配当性向	【%】	29.6%	—	30% ↗	30% ↗	30% ↗

<参考> 受注残高推移 (単体ベース)

■ 全体の受注残高 (以下「注残」)

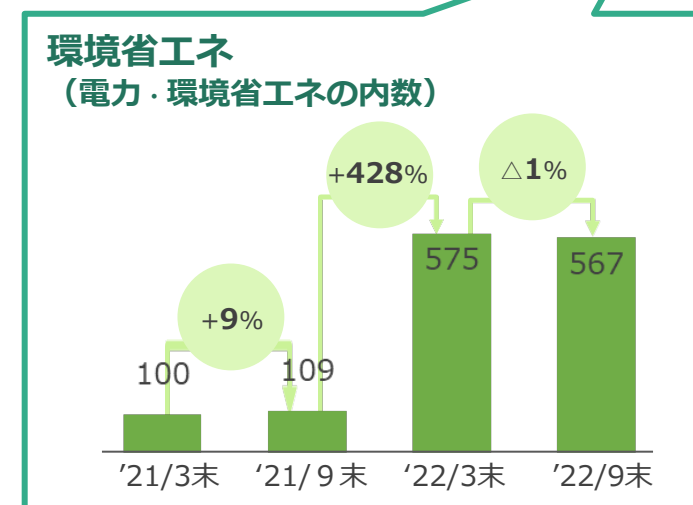
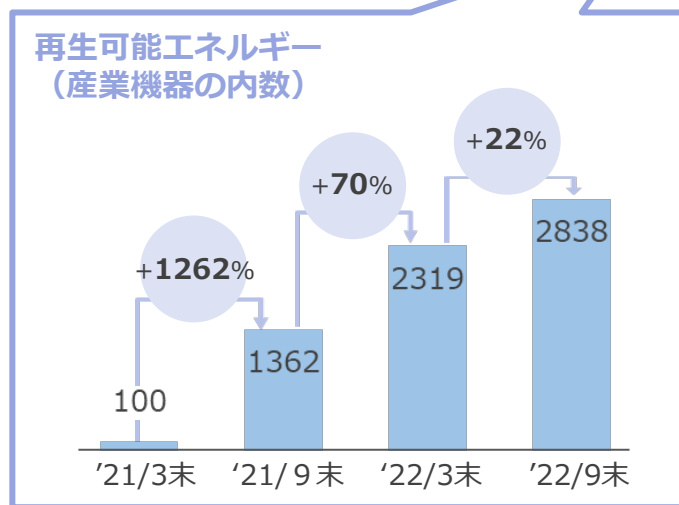
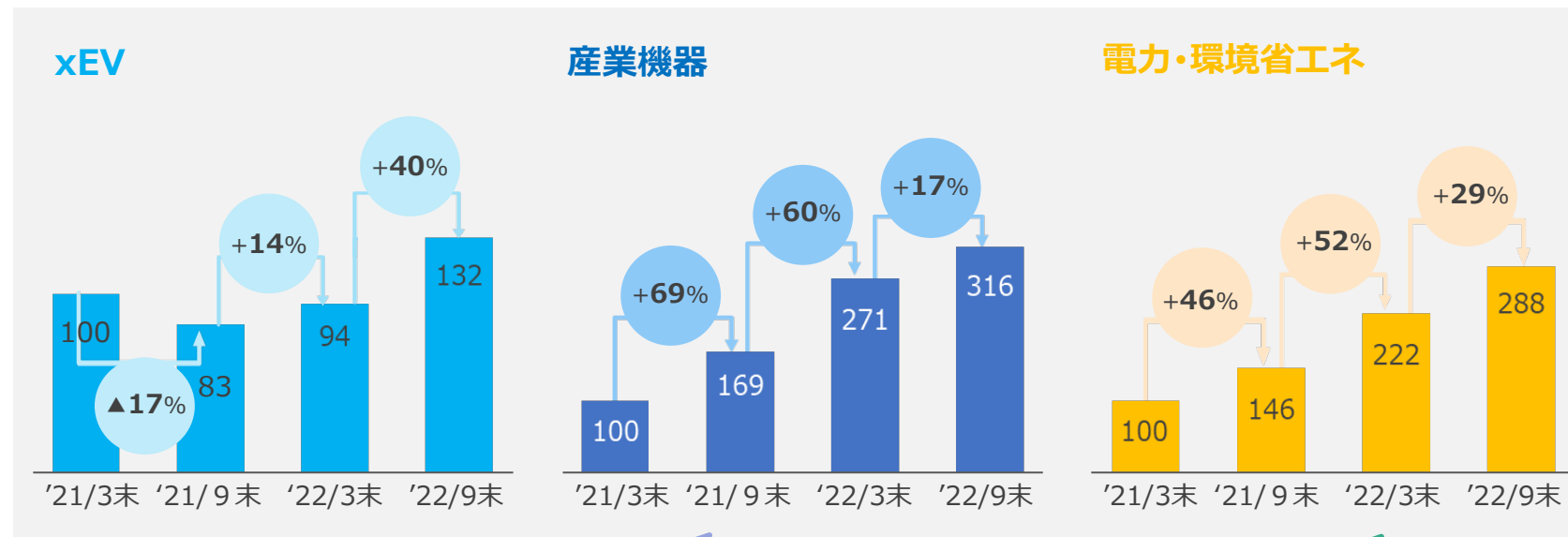
※ 単体ベース
 ※ 21年度末を100とした場合の比率



- 2021年度以降、注残が増加しており、現在も継続中。
- 部材の確保、生産能力の増強により、注残消化 (= 売上増) を目指す。

■ 主要事業別の注残推移

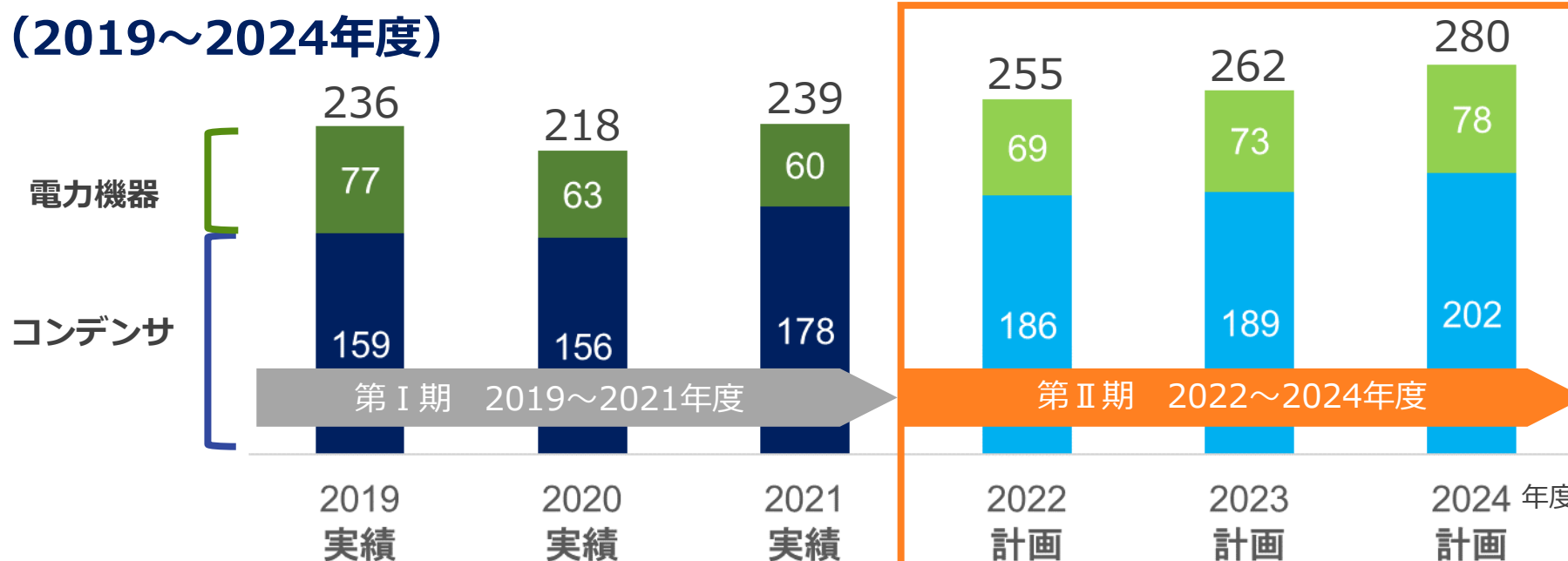
※ 21年度末を100とした場合の比



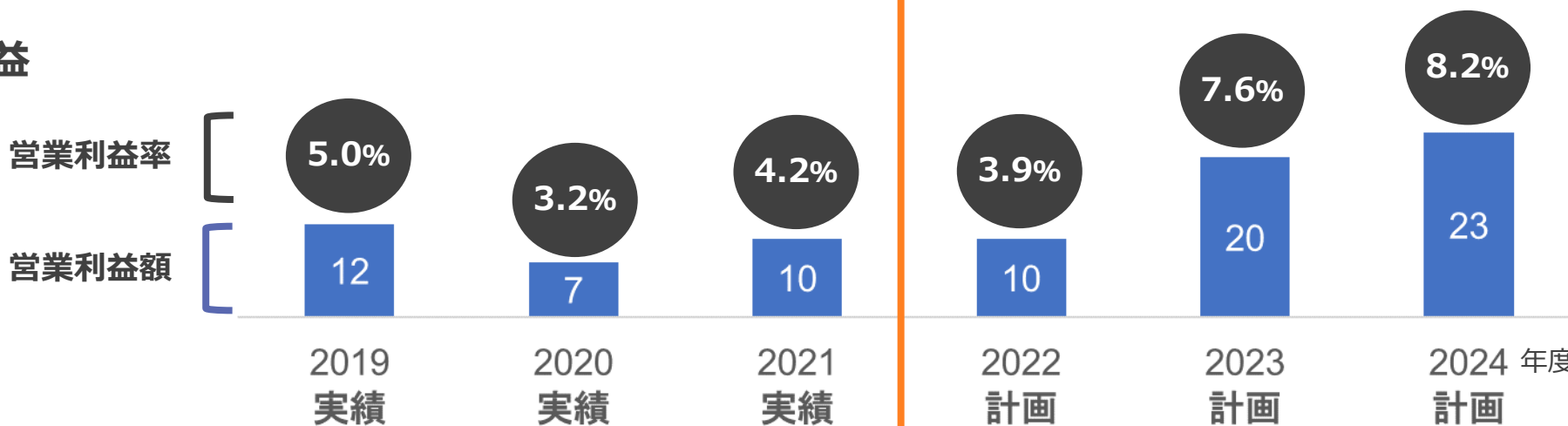
2. 中期経営計画 第Ⅱ期の取り組み

実績と計画 (2019～2024年度)

■ 売上高

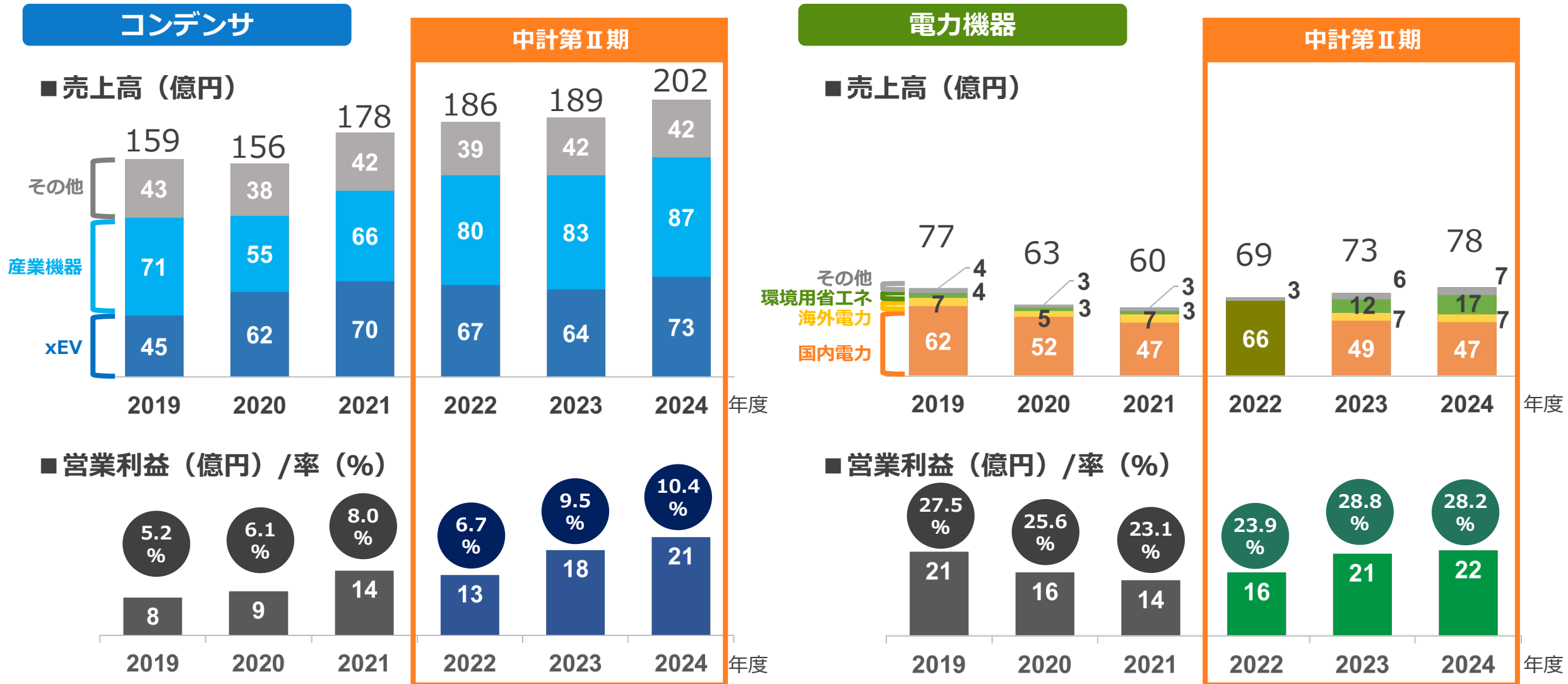


■ 営業利益



▶ 売上規模の拡大に合わせて生産性を向上し、2024年度に営業利益率8%台を達成する。

2. 中期経営計画 第Ⅱ期の取り組み



- ▶ コンデンサにおいては、xEV用製品で培った生産ノウハウの横展開により収益性の向上を狙う。
- ▶ 電力機器においては、既存品の原価抑制と高付加価値商品の販売拡大により高い利益率の維持を狙う。

1. 2023年3月期 第2四半期 連結決算概要
2023年3月期 通期 連結業績予想
2. 中期経営計画 第Ⅱ期の取り組み
3. **トピックス**

3. トピックス

1. 生産能力の拡大

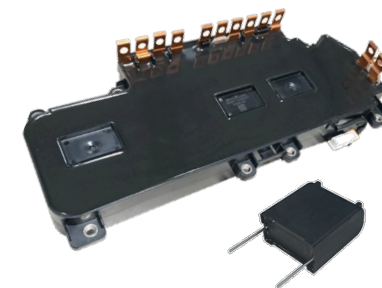
1) 太陽光PCS用コンデンサ：産業機器

- ▶ 北米向けを中心に需要旺盛。今年度は、前年比 1.6倍 の売上を見込む。
- ▶ 九州指月の生産設備増強により、生産能力を前年比 2.0倍 以上に引上げ。
- ▶ 太陽光は今後も成長市場であり、将来的にさらなる需要増が見込まれるため段階的な設備投資を継続する。



2) 車載用コンデンサ：xEV

- ▶ 2024年度以降の量産アイテムについて複数の受注内定を獲得。
- ▶ 2025年以降の案件も多数の引合あり、単純な積上では計画を超える充足率。
- ▶ 現状生産能力倍増に向けた建屋増築・設備投資を順次進めていく。
- ▶ 生産性の向上により採算性は改善傾向。



3. トピックス

2. 環境省エネ事業の拡大

1) 新商品開発：環境省エネ

- ▶ 回生INVの省エネ効果を自動車メーカーで確認、好評価を得た。今後、顧客の複数拠点での試験機導入を検討。
- ▶ 新製品開発は基本設計を完了し、市場ニーズのフィードバックを実施中。



2) 瞬低対策装置販売拡大：環境省エネ

- ▶ 投資が活況な半導体市場向けで、瞬低対策装置の受注/売上が好調。
- ▶ 瞬低対策装置は国内随一のラインナップを拡充しており高シェアを維持。
- ▶ 2000年から製造を開始、リピート率は 50% 以上と好評を得ている。



注意事項

この資料に記載されている、当社および当社グループに関する業績見通し、計画、経営目標、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、あくまでも将来の業績などに関する見通しであり、それらは各資料の作成時点において入手している情報と一定の前提に基づき作成されております。従いまして、実際の業績は経済環境、市場動向、製品の需要変動、価格変動、為替レートの変動などの重要なリスク要因や不確実な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となる可能性がありますのでご注意ください。